



日本リベンションジーンズ

与国秀真

YOKUNI Hotsuma

目に見えない世界で起きている

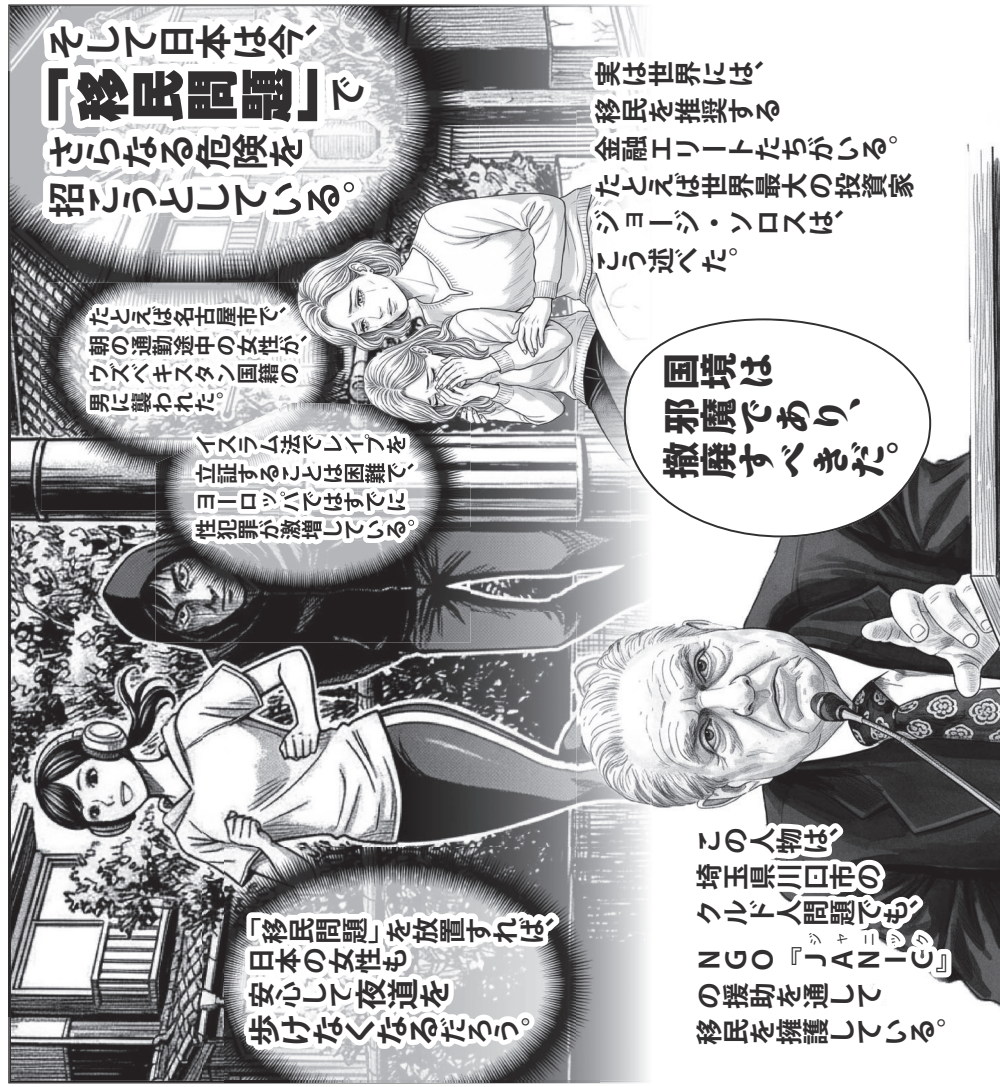
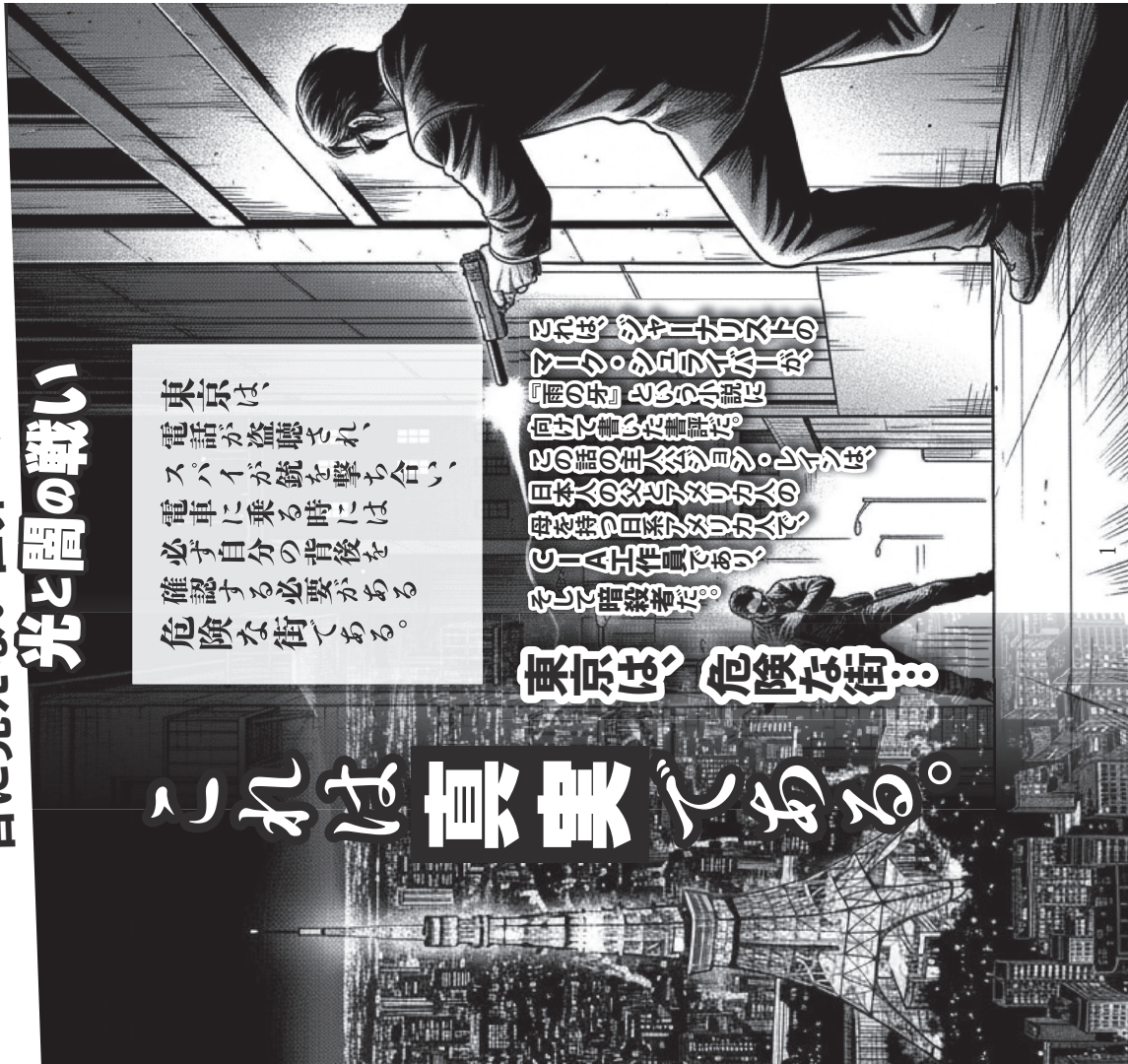
光と闇の戦い

東京は、
電話が盗聴され、
スパイが銃を撃ち合い、
電車に乗る時には
必ず自分の背後を
確認する必要がある
危険な街である。

これは、マイナースト
アーク・シエラが
『風の牙』という小説に
何れと書いた書評だ。
この話の主人公は、マイナースト
日本人の父とアメリカ人の
母を持つ日系アメリカ人で、
CIA工作員であり、
そして暗殺者だ。

東京は、危険な街！

これは真実である。



そして日本は今、
「移民問題」で
さらなる危険を
招こうとしている。

たとえば名古屋市で、
朝の通勤途中の女性が、
ウズベキスタン国籍の
男に襲われた。

イスラム法でレイプを
立証することは困難で、
ヨーロッパではすでに
性犯罪が激増している。

「移民問題」を放置すれば、
日本の女性も
安心して夜道を
歩けなくなるだろう。

実は世界には、
移民を推奨する
金融エリートたちがいる。
たとえば世界最大の投資家
ジョージ・ソロスは、
こう述べた。

国境は
邪魔であり、
撤廃すべきだ。

この人物は、
埼玉県川口市の
クルド人問題でも
NGO『JANING』
の援助を通して
移民を擁護している。



先の大戦に敗れて以来、
実は日本は金融エリートたちの
金融的植民地であり、
そして今

移民によって
滅びの危機を
迎えているのだ。

日本出版

無料公開
真実を知りたい方は
こちらをクリック





たとえば2008年9月、リーマン・ショックによる不況がまだ後を引いていた当時、

中川昭一財務大臣は、ホワイトハウスに向けて次のように猛抗議した。

日本は黙ったまま、世界のキャッシュ・デイスペンサーになるつもりはない！



その後、彼は
敵国会見を行って
財務大臣を辞職し、
その約半年後、

自宅で謎の死
を遂げた。



実は日本国民に買われている
約100兆円の国家予算、
「一般会計」の奥に、

「特別会計」というものがあり、
実際の日本の国家予算は、
約270兆円ほどである。

いわゆる「特別会計」は、
財務省のホームページに
記載されているものの、
国会でもほとんど
議論されたりは一度もない。

谷 折 り

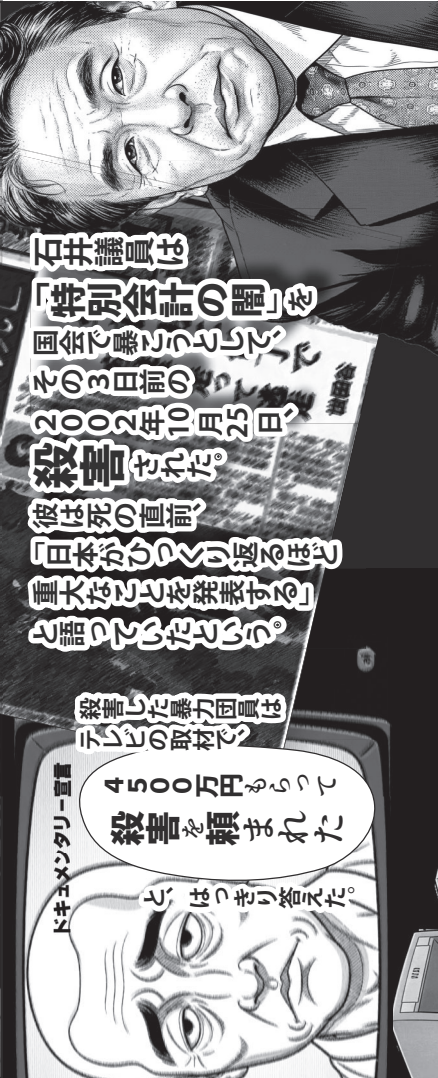


2001年に民主党の石井紘基議員が、
宮澤喜一財務大臣に、こう質問した。

特別会計が
いくらか
知っているか？

一度、
お調べしまして...

情けないことに宮沢財務大臣は、
「特別会計」を把握していなかった。



石井議員は
「特別会計の闇」を
国会で暴こうとして、
その3日前の
2002年10月25日、
殺害された。
彼は死の直前、
「日本がいつか返るほど
重大なことを発表する」
と語っていたという。

殺害した暴力団員は
テレビの取材で、

4500万円もらって
殺害を頼まれた

と、はつきり答えた。



私たち国民が納めた
税金の使い道を
政治家が正そうとすると
殺される。
確かに東京は、
危険な街なのだ。

この状況が
戦後何十年も続いている。
つまり日本が
キャッシュ・デイスペンサーなら、
それは日本人が、
ATMであることを意味する。